

事業名 「復興知」の総合化による食・農・ふくしま未来学の展開

採択大学等名

福島大学

連携市町村名

南相馬市、川内村、大熊町、飯舘村

取組概要(目的)

浜通りおよび福島県地域においてイノベーションを生み出す高度で加速度的な復興に寄与する人材の育成をめざし、「復興知」事業、「地（知）の拠点整備事業」（文部科学省COC事業）、地域実践特修プログラムを発展させて以下の取り組みを展開する。

取組1. 食・農に関する国内外の復興知を集積・活用した専門教育と研究

取組2. 全学を貫く地域実践特修プログラム「ふくしま未来学」の高度化

浜通りおよび福島県の復興に寄与する人材育成プログラムの展開と、次の4つの力を備えた、地域の復興とイノベーションの中核を担う実際的人材を育成し、人材を継続的に輩出することを目標とする。

①専門的実践解決力 ②学際的な理解・解決力 ③協働・コミュニケーション力 ④復興への情熱・浜通りへの愛着

これまでの成果

取組1 食農に関する国内外の復興知を集積・活用した専門教育と研究 「復興知」成果の社会横断的総合化・実装展開

知識・試験・技術等に「横ぐし」をさして、分野間の連携と連動を図りながら、以下の事業を進めている。さらに、すべての事業において、取組2「協働プロジェクト学修」と併行して実施することで、研究成果の社会実装のみならず、教育プログラムの一部として活用を進めている。

- ・「もうかる農業」の確立のための価値狭小システムの策定
- ・福島県の発酵食品に生息する乳酸菌に関する研究
- ・根圏土壌におけるCs、Kの挙動把握
- ・除染された農耕地の土壌肥沃度回復と増収効果 他

「福島大学『復興知』エクステンション」展開

福島フォーラム（福島大学の教職員の研究成果や資源を公開する場）や小中学校などへの出前授業を通じ、浜通り地域や福島県内の学校等に知見を提供している。

福島フォーラムでは、2021年度の事業開始以来、13回開催し延べ459名が参加した。小中学校などへの出前授業についても、10回開催し、延べ320名の参加を得た。このように、連携市町村を含む浜通り地域の市民、農業従事者等への幅広い分野の基礎的知識の醸成促進を進めている。

取組2 全学を貫く地域実践特修プログラム「ふくしま未来学」の高度化
これまでの「ふくしま未来学」を継続・増強することに加え、主に以下の取組を通じ、浜通りの地域課題解決やコミュニティの再生、新たな技術の創造等を担う人材育成を図っている。

【1年生・2-4年生】FW・SL科目「むらの大学」の増強・新フィールドでの実施

地域住民との交流・調査(FW)、活動を通じた学び(SL)を行う正課科目「むらの大学」の定員を増やし、さらに、2023年度からは2年生以上向けに「むらの大学(合宿版)」を新たに開講している。また、従来の川内村・南相馬市に加えて2021年度から大熊町でも実施しており、2年生以降に継続してSLを行う「自主学修プログラム」も同様に増強・拡大している。

【2-4年生】学類を超えたプロジェクト学修「協働プロジェクト学修」の新設

「学生全員を復興・地域課題解決のプレイヤーに」を目標に、浜通り地域をフィールドとしたプロジェクト学修を2021年度に新設した。当初は3年生以上が対象だったが、2023年度からは2年生以上とし、専門性や地域問題の解決能力、他の専門性を有するメンバーとの協働力・学際性などを有する、高度な復興人材の育成を図っている。

【全学年】スタディツアー「みらいバス」の強化

浜通り地域を訪れるワンデー・スタディツアー「みらいバス」の回数および内容を強化し、2021年度以降で延べ26回実施し405名が参加している。



「『復興知』の総合化による食・農・ふくしま未来学の展開」概念図



※ FW:フィールドワーク、SL:サービス・ラーニング

事業終了時点の成果及びその後の見通し

取組1 食農に関する国内外の復興知を集積・活用した専門教育と研究

「復興知」成果の社会横断的総合化・実装展開で実施している事業については、連携市町村の自治体、農業従事者の協力のもと実装展開を継続する。また、福島大学の教育プログラム構築の一部として活用することで、2026年度以降も事業成果が継続活用される体制を構築する。

「福島大学『復興知』エクステンション」展開については、コンテンツを見直しながら、復興農学会等の学協会との連携を強化して実施するとともに、基礎となる知を深める。また、ビデオ化するなどして人材育成・教育のためのコンテンツとしてのアーカイブ整備を進め継続活用される体制を構築する。

取組2 全学を貫く地域実践特修プログラム「ふくしま未来学」の高度化

本事業での成果を基に、被災地域の現場に根差しながら地域課題を実証的に発見・分析・解決する力を身につけ、さらに地域におけるEBPMに精通した、福島県の復興・創生を牽引する人材を育成するための全学的な実践教育プログラムを開発し、継続して運営する。

また、現在も進めている動画コンテンツの公開に加えて、福島県の復興を教材とする「福島型サービス・ラーニング(SL)」の実践と学習効果検証を行い、いずれも国内外の高等教育機関等が福島での教育実践に応用できるよう発信を行う。